

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2022年8月15日 第366号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//tutiuraheiwa.web.fc2.com/

コロナ下3年目の夏「平和行事」旺盛に

7/9 国民平和大行進 2022土浦行動

8/11-14 「原爆と人間展」 & 特別企画 被爆記録上映会

8/13 8・15平和のつどい 映画「ひまわり」上映会



コロナ下3年目の今年は、恒例の夏の平和行事が相次いで再開された。とは言っても、急激なコロナ再燃で不安の中の再開である。

【国民平和大行進 2022土浦行動】

皮切りは7月8日の「2022国民平和大行進土浦行動」、出発集会→行進→街頭スタンディング→宣伝カー運行と多彩に展開された。（これについては前号(第365号)で紹介済み)

【原爆と人間展】

続いて、8月11日～14日には「原爆と人間展」が開催された。日本被団協所蔵の記録写真とともに広島市立基町高校美術部の生徒が描いた「原爆の絵」、さらに原爆や戦時の資料が展示された。胸に迫る作品群に多くの参加者が見入った。

【特別企画 被爆記録上映会】

初日11日午後は特別企画として被爆記録DVD「The A-bomb ヒロシマで何が起こったか」が上映された。「2004年、東京の映像プロダクション



り戦争の愚かさを訴える名画に150人が引き込まれた。

被爆パネル展<<感想ノート>>より

基町高校の生徒さんたちの絵、進歩・深化していることが良くわかる。77年前の8・6がしっかり伝えられている。

今、平和を叫ぶ人間が少なくなっているように見えるが、このような企画をつづけるかぎり、人類は記憶をしっかり継承して歴史を確実に前に進めることを確信する。

集会参加よびかけ

**STOP! 東海第二原発の再稼働
いばらき大集会**

8月27日(土) 13:30~15:30

駿優教育会館8階音楽ホール(水戸市三の丸1-1-42)
集会後、アピール行動(デモ)雨天決行



(写真)倉庫に眠っていたネガフィルムすでに腐食が進んでいた。

ンで、ある作業が行われた。長い間倉庫に眠っていた未編集のネガフィルムです。史上初めて人類の上に投下された原子爆弾、その破壊の様子が克明に記録されています」とのナレーションにはじまり、被爆の実相が生々しく紹介されていきます。胸に迫る46分でした。

【8・15平和のつどい 映画「ひまわり」】

8月13日午後クラフトシビックホール土浦(市民会館)では「8・15平和のつどい」企画として、映画「ひまわり」が上映された。

映画は戦争によって引き裂かれた男女の愛を描いた不朽の名作(1970年・名匠ピットリ・デ・シーカ作)。声高に反戦を叫ぶのではなく、じっく

茨城県平和委員会が抗議文

故安倍元首相の「国葬」の閣議決定に強く抗議し、撤回を求める

内閣総理大臣 岸田文雄様

岸田政権は、7月22日、広く国民の声を聞くこともなく、国会での十分な審議と説明もないままに、故安倍元首相の「国葬」を強行する閣議決定を行った。私たちは、参議院選挙の遊説中に銃撃され非業の死を遂げた安倍晋三元首相に心から哀悼の意を表するものである。しかし銃撃事件の容疑者の動機は、旧統一教会（世界平和統一家庭連合）への恨みと報じられており、まず政治家と宗教団体の関係について明らかにされることが必要と考えている。

「国葬」に関する法令上の規定はなく、「閣議決定」という政府の判断だけで決定し、全額国費で負担することは、安倍氏の政治を美化し、故人への賛美を国民に強要することにほかならない。国民に対して弔意を事実上強制することにつながり、憲法第19条「思想・良心の自由」、内心の自由を侵害するものである。

安倍氏は、日本国憲法を無視し、集団的自衛権行使容認の閣議決定に続き、「安保法制＝戦争法」を強行採決して「戦争する国づくり」をすすめた。森友・加計学園問題では権力を私物化し、桜を見る会では虚偽答弁を118回もするなど、国会を軽視、政治の劣化を招いた。さらに、安倍氏は首相退任の際に、「軍事力の抜本的強化」や「核共有論」まで言及している。岸田首相は「安倍氏の遺志を継承する」と言って「防衛費のGDP比2%化」や「敵基地攻撃能力の強化」、改憲と大軍拡路

線に突き進もうとしている。このような「戦争する国づくり」を強行した安倍政治を引継ぐことに対して、立憲野党はもちろん市民団体や個人からも反対の声が多数上がっている。「国葬」を政治的に利用することは、許されない。

茨城県平和委員会は、常任理事会の名において、岸田政権による故安倍元首相の「国葬」実施の閣議決定に強く抗議し、撤回を求める。

声

8/11 原爆と人間展特別企画 被爆記録試聴会にて

■実行委員会大西さんの朗読

(核禁条約国際会議にふれた部分を抜粋しました)

この会議ではオブザーバーとしての参加が認められ、自国の難しい課題を抱えつつも参加を決めた国々、数多くの地域がありました。しかし、唯一の戦争被爆国である日本がなぜ参加を見送るのかの声、核保有国との橋渡しを担う・・・それならば例えそれがオブザーバー参加であっても、唯一の戦争被爆国の姿勢を世界に見せることこそが、子や孫たちへの責任であり、その姿こそが将来の安心と平和につながると思うのです。今、各地の若者たちは語り継がなければと、様々に行動を起こしています。今日ここに展示されている原爆の絵は被爆された方々の声を聞き若者たちが描いたものです。

私たちは今一度声を上げたいと思います。ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、そしてノーモア・ヒバクシャ、と。

「権力はいつの時代でも宗教を支配のために利用する」ということを忘れていた。

江戸時代には仏教寺院は寺請制度によって農民の素性を把握して戸籍係の役目を果たしていた。キリシタン弾圧のためには「踏み絵」を行った。明治になって廃仏毀釈によって寺院の勢力は衰え、代わって神道が国家神道として保護を受け、天皇家とその先祖として天照大神を祭る伊勢神宮が神道の中心神社とされた。天皇制絶対主義体制を作り神の国として戦争にも利用された。戦後政教分離の政策によって

宗教の特権は無くなったと思っていたら今回の統一教会にかかわる事件です。

統一教会は岸信介の保護のもと自民党内に浸透していった。自民党としては「反共」と「選挙支援」のために統一教会と勝共連合を利用し、統一教会は自民党議員の名前を利用して勢力を伸ばしていったことが明らかになってき

権力と宗教「権力はいつの時代でも宗教を支配のために利用する」

井上仁志（土浦平和の会理事）

た。安倍元首相がトランプ元大統領に文鮮明を紹介してアメリカへの布教の橋渡しをしたといわれている。

福田達夫元総務会長が統一教会との関係について「何が問題なのかわからない」といい、岸信夫防衛相は「靈感商法や高額献金で社会問題化している団体だと認識していた」といいながら、今後のかわりについては「選挙の時に適切に判断して対処する」と

答えて関係を断つとはいいません。自民党の対応は「オオムは利用できないので弾圧したけれども統一教会は今後も利用

したい」と聞こえます。公明党と創価学会の関係は周知のとおりですが、問題のある宗教団体ではないから同列に扱うわけにいかないのは当然です。維新には元自民党の議員も多数いるのでやはり統一教会との協力関係については明確にしておくことが必要でしょう。



【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）：月額593円（送料含）



土浦平和の会